大根占町報
第24号
発行所
大根占町役場
電話 大根占1番
編集兼発行人
宮里軍吉
印刷所
鹿屋市曽田町6647
南日本新聞社鹿屋支社
電話88・98・126番

多難な年でした！ご協力を深謝します

町長　宮里軍吉

昭和29年をかえりみて

昭和二十九年を玆に迎らんとして、多事多難な一年の歩みを省み、私は無量の感慨を覚えるのであります。昨年は解決すべき多くの問題をもつて上京中不幸にして病を得、町民皆さまのご同情と、激励に、今や全く健康は旧に復し、再生の喜びに、日夜感恩に酬いるべく、町政の進展に日夜努力しつゝありますが、途中病気に倒れたことは、今に至るもかえすがゝ残念でなりません。

然し乍ら、町行政は、町議会始め町民各位の大いなる協力によつて着実的ではありますが、着実に進歩発展の方向に向いつゝあることは、真に感謝にたえません。

この一年間、町行政の重要なこととして施行された案件は十指に余りますが、特に多年の懸案であります、高等学校の新立移管が、町民の力強いご支援と、本町の政治力を結集した努力が報いられて、遂に実現されたことは、みなさまと共に誠に喜びにたえません。

地勢上、鹿屋市と共に、本町は、運輸、商業、林業資源開発の島に最も急を要する問題でありますが、先づ町道としては、半下石線、久特線、厚ケ瀬線の改良工事及び白井ー安水間、高尾ー中野間の大々的改修がなされ、他の町道及び同認定路線も地元民の献身的な労力奉仕によつて、旧来の面目を一新いたしました。

農林道は、町費助成農道五線の外、農業委員会で施行する、炭焼分収及び区画整理の実施に伴う付帯事業として、域元、島民地区の関大な台地にトラックの開発する幹線一本並に支農道路外二万余米が計画され、農業委員会としては年毎に計画を進め、全町に及ぼす予定であります。

奥地林道開元線の着工は、本町に於ける本格的林道開発の先駆をなすものでありまして、今後はこの延長の継続施工を進めると共に笹原より田代村に通ずる林道も、地元並に関係者の協力を得て是非実現せねばならないと考えております。

縣道中之浜の開通に伴い、半下石、池田、中野を結び、鹿屋市へ通ずるバス運行の実現は町内循環バス開通への前路を開いたもので、これによつて消費地区の産業経済の飛躍的伸展を約束され、地元民と共に喜びにたえない次第であります。

大隅海岸道路も彦々その延長が、本年度城ケ崎まで進し、来年度は本町市街地の施工が予定されて居りますが、沿道関係者のご理解とご協力によつて円滑に、進行していることは、誠に感謝にたえません、昨年来の海岸堤築造は島之浜塩屋方面の工事が一段落し、塩屋方面の一部と馬場方面海岸が築されて居りますが、塩屋及び山ノ口海岸堤は確定し、近い将来に施工の運びに至るものと考えて居ります。

国土保全事業として、笹原、厚ケ瀬、崩迫、半下石の崩壊地砂防工事は着々進み、住民の不安は解消されましたが、地質の上からも、この種災害は多発を懸念されるので災害防止については、各位の不断のご協力を切望するものであります。

次に産業経済の分野に於きましては、高校の縣立移管成り、築港事業も本年度を以て一応の完成を見るので、明年以降は特に力を致して、その振興を図らねばならんと考えて居ります。縣案の池田畑地かんがいは、緊縮財政の今日、その実現を危惧致して居りましたが縣当局に強く、強力に働きかけた結果、確定を得、その実現も確実のことではないと確信致して居ります。本年度の如き作柄に於いては、本町の食糧事情は、僅かにその三〇％を、自給するに過ぎず換金産業を別に振起致しましてもその不足は、主食代金として流出する現状であり、この打開策は、畑地かんがいの全面的実施と、交換分合、区画整理など、基本的土地改良の推進が緊務なりと信じ、全力を尽いてこの実現を期したいと考えて居ります。

農業協同組合の再建は、本年度の一番大きな課題でありましたが、同組合役員に、役職員の努力、組合員の協力により、漸く一筋の光明を見出してありましたに拘らず、近年、災害つゞきの島、作柄は従来にない不作となり、これが為再建計画も一頓座するのではないかと、案じて居りますが、もとより農業協同組合は島家経済伸長の基盤となるものであり、全町挙げてこの再建に当らねばなりませんお互いに苦しい時ではありますがこの上とも、絶大な協力をお願い致す次第であります。

各種農作物の全般的不作は農家経済に容易ならぬ打撃を与えましたが、一事の望みをつないで居りました煙草作も予想に反し、六、三〇〇万に止まりました。しかし乍ら本町と致しましては、何と云つても換金作の主者であり、販路に心配のない唯一のものであり、この上とも、その拡張を図らねばなりません。現在その増反運動が展開されて居りますが、是非共、目的を達するよう、ご協力が願いたいのであります。

以上一年の歩みを省み、誠に多事であつたことを想うのでありますが、この間にあつて、青年團、婦人会等の、活発なる活動と、全面的ご協力に対しましては、万腔の敬意を表する次第であります。

公民館の活動も近年漸くその形をとゝのえて参りましたが、公民館を中心とし、これら民主團体が益々その基礎を強化し、生活改善、建全なる町民性の涵養に、尽力されるよう、切望して止みません。

町政各般に亘る、町民各位のご協力は、眞に感謝にたえない次第でありますが、特に不況の今日、納税成績は日を追うて上り、これこそみなさまの憂町心の発露と、激を禁じ得ないのであります。

不肖一万六千町民の負託を受け、日夜励んで居りますが、町民のご要望に対し、至らざる点、多々あるを申訳なく考えて居ります。

もとより、本町と致しまして、解決を迫られる、重要案件は山積して居りますが、如何にせん、財政力は限られたものであり、財源の涵養と、経費節減には、最も苦慮致して居りますが、幸にして、上層の善処にすがり、第一次第二次を通じ、一五〇町歩の国有林野の払下げを受け、従来の町有林と共に、基本財産の造成に努力し、町役場に於いても、五〇名の定数（委員会等を含む）の処現在四六名で事務を執行し、四名の欠員でありますが、経費節減のため、欠員不補充の方針を確守し、職員の能力の向上を図り各課係の運営を強化し、少数精鋭主義を以ていきゝかも事務の渋滞なく、更に従来以上に能率を向上せしめるよう、督励致しておる次第であります。

既往一年を省み、みなさまの全幅のご支援ご協力に対しまして、重ねて感謝申上げると共に、本年は十二日で全部終了したが、賠償金の取得目標七、〇〇〇万円に対し、当初四千万円を見込まれたが、予想に反し三千八百万円台に止まつた。原因としては、天候不順、とくに長雨つゞきで量質共に低下したことがあげられる。具体的な実績は次の通りである。

耕作人員　五一三人
面積　一一九町五反九畝二一歩
量目　一七七、〇〇三K
賠償金　六三、七七六、四四五円
一K当　三六〇円
反当り　一四八K　五三、三二六円
賠償金高額取得者
押領司才造（川南部落）
四〇八、七〇〇円　面積五反歩
反当最高取得者
中迫好哉（上ノ宇都）
反当　二〇五K七〇〇
九四、五一五円

賠償金総額　六、三七七万円

☆葉たばこ収納終る☆

町議会だより

承認、八十一号縣案大根占高校縣移管に伴う職員三名分の給与の件承認、八十二号大根占高等学校縣立移管に伴う施設整備等条件について承認されました。

十一月八日第八回臨時町議会が開会されましたのでその結果をお知らせします。議案第七八号町有立木（樫）の指名入札の件承認、七九号固定資産評価審査委員会委員山元穂夫氏の任期満了により後任に岡氏を選任の件承認、八〇号縣案大根占高等学校縣立移管に伴う施設整備等条件について陳情請願について総務委員会の決定に基いて委員長の報告がなされました。

以上が当局提案の議案でありましたがその他に町長より町村合併についてその結果を知らせ、報告の通り承認されました。

年末年始　生活簡素化運動

町婦人会

☆年末の簡素化
1、歳暮の贈答は廃止しましょう
親元仲人等にも控え目に。
2、お餅のやりとりは止めましょう。鏡餅は小さくとりましょう
※年始の簡素化
1、年始まわりは三日迄に致しましょう。
2、料理は二品以内に致しましょう。
3、九時以後の飲酒はやめていただきましょう。
4、七つ祝は共同でやりましょう（部落や校区毎に）
賀状は実用的（進学用洋服等）に致しましょう。

湧き上るよろこび

高校縣立移管祝賀行事

町民観呼の中に、二十七、二十八両日に亘つて繰りひろげられた高校縣立移管の祝賀行事は、異天候にも拘らず、知事代理縣厚報文書課長、木原縣教育委員、はじめ五十名の來賓、四〇〇名の協賛会員が参加した祝賀会両校舎の生徒、町民多数が参加した大運動会と、移管実現の湧き立つ喜びに大盛況で終了した。

（写眞は謝辞を述べる南大隅高校長）

12月の行事

2日　鹿児島縣消防操法競技会（本町消防團出場）
4日　町主催慰霊祭（於大根占小）
7日　円芸振興会役員会
28日　ご用納
◉　3回目デフテリヤ予防注射
9日　午前　大根占　午後　神川
10日　午前　池田　午前　宿利原
◉　秋期清掃検査
13日から25日まで（日曜を除く）
◉　農談会
2日から7日まで（日曜を除く）

大根占町の郷土史（第五回）

堂地統

五、平家落人と大根占

我が町には平家落人（おちうど）に関する口碑（こうひ）傳説がすこぶる多い。即ち半ケ石、毛下（はおろし）、池田、段部落には古来平家落人と称する家があり、馬場の坂元家、山元家、才原の黒瀬家も平家の末裔（まつよう）と傳えている。其の他麻生氏の文流を加えると相当に豊富な史料があるのである。筆者はこれ等諸家の口傳と古文書遺物遺跡等をつぶさに調査考証して我が町に土着するに到つた経緯（けいい）を述べたいと思う。それには先ず壇之浦海戦に敗北した平家一族の其の後の動静を知る必要がある。それ等を明らかにした後標題にかゝげた本論に入る事にする。

◉安徳天皇の御西遷説

正史によると長門国（ながとのくに）壇之浦に追いつめられた平家方の軍船は五百余艘時は寿永四年三月二十四日（今より七百六十九年前）正午頃から天下分け目の大海戦が始まつた。午後三時頃となると平家の戦況いよ〳〵不利となり、大敗戦の最後を見るに至つたが本清盛の妻二位尼は今はこれまでと御齢八歳の安徳天皇を抱き奉り海中に身を投じた。これを以て平家は滅亡した事を傳えている。

然しそれは正史の事で其の実、安徳天皇の御入水説は平家側のさまん的宣傳によつて起つたもので実際は平有盛の女（むすめ）を天皇に擬（ぎ）し其のすきに乗じてひそかに壇之浦の修羅場（しゅらじょう）を脱出し大納言（だいなごん）時忠、新三位資盛（すけもり）、左馬頭（さまのかみ）行盛、左少将有盛等の平家一門に系譜せられ一たん長門国彦島に御入城あらせられ、後筑紫路に御落ゆあらせられたと申す事である。当時平家に非らざる者は人に非ずとまで豪語していた平家の精鋭一千軍勢がすべて海底の藻屑（もくず）と消え去つたとは考えられないし、九州各地の沿岸（えんがん）か山間には当時敗戦の将士が潜伏したと、いう傳説や史実が今日に傳わり有力な考証の資料を提供しているのはこの辺の消息を物語るものであろう。我が三州に到つては特に多く出水の名護浦（なごうら）、谷山、内之浦、高山、佐多大根占、更に離島に及んで種子島硫黄島、奄美大島等傳説地が多い。本縣は壇之浦とは隙（すこぶ）る遠隔の地であるが避難の地としては隙る適当な地所であり、又平家に縁故の深い土地でもある点等より考える時、安住の地として当地方を選んだ事は肯定される所である。

さて文献の上ではこれ等の史実を如何に述べているであろうか。

◉安徳天皇内之浦に御潛幸

鹿児島外史巻之一養和帝（安徳天皇の事）の條に安徳天皇は山口縣下関より御乗船になり玄海灘を御航行になり九州西海岸を御通過薩摩国出水郡奈古浦（なごうら）（現在の名護浦）へ御上陸になつたこれより大隅の豪族士持肝付氏（高山の城主）を御頼みになつて大隅国内之浦に御潛幸あらせられたが時あたかも、島津忠久が源氏の命を受けて関東より薩摩へ下着したので、又もや内地を離れ硫黄島に渡御（とぎょ）あらせられたと述べている。

また『薩摩国硫黄島三所大権現宮縁起本記』の記録は興味が深いので原文のまゝ掲載する。

『……三月十五日暮方壇之浦ノ陣ヲ発シ、宋明伊予国高島ニ着、同十六日高島ヲ発船、翌日日州細島ニ着船暫時碇泊（さんじていはく）、福原相模守季長手下郎従二十人ヲ随ヘ日州小戸又ハ宇佐大宰府詣ノ山伏ニ出立チテ彼方此方ノ首信ヲ聽ク同月二十日主上関ノ戸ニ着御ノ報アリ。

（註日向国細島に上陸してより一説は別れて耳川を上流にさかのぼりヒエツキ節で有名な推薬に向つた鶴富姫と那須大八の哀恋物語は其の後に生れたものであろう。

三月二十九日細島ヲ出帆、逆風ニ逢ヒ四月五日隅州志布志浦ニ着岸同八日志布志発船、隅州ノ沖ヲ過グル所ニ乾風ニ支ヘラレテ乗戻ス種子島浦田ト云フ所ニ着岸ス。

（中略）

四月十五日種子島浦田ヲ出帆シタルガ隅州ノ内之浦ニ着シタリ資盛、時房、経正皆申シケルハ誠ニ此地南開ケ後ハ玄武ノ地ナリト雖モ分内狭ク敵軍後ヨリ攻メカヽル時ハ凌ギ難シトテ同月十八日内之浦ヲ発シ、二十一日同国大泊浦ニ着岸（註佐多町大泊なり）其日碇泊資盛卿菊地二郎行吉ヲ召サレ是ヨリ西ヘ煙立候ハ賊及ブ硫黄島トヤラン ハ何ゾト問ヒ給フ、行吉今日ハ宣シカルベク候ト申スサラバ急グベシトテ出帆アル寮ノ御船ヲ眞中ニ諸船外ヲ囲ミ逆風ヲモ顧ミズ櫓櫂ヲ押立テ一樣ニ安静ノ地ヲ得ントテ相働ク程ニ元暦二乙巳五月朔日（ついたち）硫黄ケ島長浜浦ニ着岸……（以下略）

以上の諸説は大隅国内之浦に到着の経路は異るも内之浦に到着した点に於ては一致している。

さて内之浦に上陸した一隊は本隊と別れて国見の険嶮（けんしゅん）を越え大根占の里に身を潛（ひそ）めたのである。

以下次号

◉農地集團化事業強調月間

十二月一日―三十一日

あなたはまだ〳〵「樂に農業をやれる!!」

町報第二十号で農地の交換分合及びそれに附帯する農道の新設改修についてお知らせしましたが、国及び縣は十二月一ぱいを農地集團化事業強調月間として展く啓発運動を起すことになりました。これにちなんで、町としましても、本年度実施中の城元、鳥浜地区（五九〇町）を完全に遂行するため各関係農家はもちろん、全部の農家がこの事業に対して理解を深め、将来町全体に事業を進め、農地改革から農業改革へと豊かな町建設へ邁進したいものです。

昭和二十四年八月四日から施行された土地改良法によりますと、その目的の中に『此の法律は農業経営を合理化し農業生産力を発展させるため』という文句があります今後農業生産を増大させるにはどうしたらいいか／それは農地の交換分合によつて農地の集團化をはかることが根本であると云えます何故でしようか、工業は日進月歩次から次へと新らしい製品が現われています。しかし農業は何年経つても、其の技術なり経営方法は余り変つたようにも見えません。

人間の一生は信用が大事だと言います。たとえばどんなに頭が良くても、腕が立ち口がうまくても、又女なら美しい人でも信用がない人は他人が相手にしてくれませんので、その人の一生は一人よがりの人生であつて、誰も心から相手として考え、交つてくれない淋しいものなのです。其の信用をはかる一つとして『約束した事は必ず約束通りに実行して他人に迷惑をかけない』事が考えられ最も大切な事ではないでしようか。借りる時に返す時の事を考えて借りて期限通りにそれを返す事こそそれなのです。組合に借りのある人が返さないために貯金が払えなくなる様では貯金をしなくなるのは人情として当り前です。今までは思う様に支払を出来なかつた時もあり肥料を借りたい人にも充分貸せられない不便な組合になつて居りましたが、もう此の辺で組合員は勿論各種團体も町内みんな農協を信用して利用下さる様にお願申上たいのです。尚苦しいくらしで今まで組合に不義理をして居られる方々も良く〳〵組合よりの借金について其の性質を分つて頂いて他人に迷惑をかけない、人の道を守る事と末永くお互が共に生き長らへて行く誠の人間の道を考えて、月々少しづゝでも返して頂く様にお願いしたいのです。又貯金の余力のある方も今の農家の苦しさは充分知つて居られるのですから組合貯金や色々の資上代金を残さぬ様に持つて帰らない事にして下さい。組合は預つて皆様方に迷惑はかけません。組合貯金は組合のために積んで貰いますが組合は皆さんお互のものです。毎日〳〵皆さんに関係のある事ばかりなのです。組合は今年度になつてから縣信運や経済連より相当な便宜を頂いて居ります。これは大根占町農協の組合員が貯金もする販売品も組合に出す、肥料も組合から買うという信用に外ならないのです。昨年度までは期限内に払えず高い利息を払つて居り困つた時には貸りる事も苦労をしたのです。

1日10円で400万円

大農協参事別府態男

これだけの例を見ても交換分合が如何に必要であるかが、わかりますが、單に労力だけの節約ではありません。共同作業を可能にし、家畜機械類も共同で利用できるのであります。

皆さんこうして始めて農地改革の目的とする『働く人も土地も共に民主化された明るい農村』が建設され、働き甲斐のある農業がつくり出されるのです。そうすることが農民に課せられた義務であり又同時に生活安定のためであることを再認識して下さい。

銀行の窓口からみた町経済

淋しい商店街

木炭木材界活況呈す

鹿銀支店長　江夏砂雄

昨年十月実施されたデフレ政策即ち緊縮財政金融引締政策は、約一年経過した今日其の結果は著るしく、全国的に地方公共團体の財政難有名業者、一流商社等不渡手形の増加、倒産又は内整理となつて現われ、漸次地方に波及して既に鹿児島市でもその例を多く見るきびしい現実であります。

鹿児島に直結する当地も、御多聞にもれずその影響は逐次浸透してですが理由は信用の問題だつたのです。何故信用がなかつたかと申しますと、大根占町の農家の皆さんが自分の組合を大事にする熱意が足りなかつたからなのです。農業振興は一人一人の一本立では出來るものでなく皆の力を合してこそ初めて出來ることであつて排水工事や耕地整理をやるにしても他人の部合と合せないと出來ないのであつて農民程みんなが力を合はす必要があるのです。老いも若きも男も女も農家が今日如何に大切な時になつているかを十分工夫して実行して頂きたいと思います。私共は百年の計を立て〳〵一歩〳〵目的達想に向つて進むべきでありますが貯金する事は苦しい暮しからつまみ出し貯金をするのですから仲々苦労します。だが心掛一つであつて出來ぬ事ではありませんあり、結果的に決して良好とは言えず、笛吹けど相手は踊らず右顧れずが眞実でありましよう。その原因は徹底したデフレ政策による一般購買力不振が漸次表面化して來た結果でありましよう。

去る九月十五日に於ける日銀勞の発勞高即ち全国に実在するお金は合計して遂に五千億を割り四千七百九十二億円であつて前年に比較して実に百十三億円の激減であり金詰りを如実に裏書して居りこの現象は二十年振りに見る稀なものであります。これが都市地方を問わず最近の経済金融事情を雄弁に物語る根本的な資料と思うのであります。さて物の動きによつて預貯金も自ら移動するわけでありますが、物の動きは結局為替を通じて預貯金も大きく左右されるのであります。即ち今迄不釣合だつた為替尻は十月に入つて特に資源の小賣業者の賣上金の預貯金として地元に滞溜の余裕もなく流出している現状であります。

かゝる経済状勢中に私が当地に赴任しましたのは去る六月で丁度長い梅雨時期でもあつた関係で当地銀店街も特に淋しい位の賣行不振であつた事はむしろ当然と言えましよう。

其の間祇園祭或はお盆等の賣出時にも業者の方々は相当な熱意と期待を持つて努力されたのでありますが、何分夏枯れのデフレ下では仮に一日に一個の卵でも節約十円でも貯金することを考えた場合…

❶一日十円で一二二四円（組合員〇壱万弐千円

❷壱万弐千円の三十日三拾六万円

❸三拾六万円の十二ケ月四百参拾弐万円、一年分となつて馬鹿にならぬ数字であります。四三二万円を農家全体が使う肥料賣金にすれば一〇回轉して四、三二〇万円です。資金があれば肥料は安く買えるし、その上貯金者には利子も当然つくし組合員みんなも助かる事になります。肥料が安い時に買いたくても買えないでは損をする事はかりです。大根占町全体の農家の肥料代は年四、〇〇〇万円位だと思いますがこれだけの貯金が肥料賣金として用意出来れば低く見ても一俵三〇円は安く買える事

助け合う氣持で 12月にはすませましよう 供出

本年の水陸稲は、植付け当時からの天候不順で、生理障害とも云うべき状態にあつたところに、連続霖雨した台風で更にいためつけられ、陸稲の如きは無收かくと云つても、過言ではないでしようこのような不作の年に本町の供出割当量は三九八石でありましておたがいに苦しいのですが、ぜひ十二月中には済ませて下さるようにお願い申上げます。

一般消費者は、毎月十五日分の配給で、内地米は俵か九日分です。なおまた、災害の為に轉落農家は急増して、配給米は余計必要になつて來て居りますが、配給割当が少ないので増加して貰うよう縣に陳情致しましても、供出成績によつて配給割当も決定するような実情であり、消費町である本町などは、供出農家の全面的な協力がなければ、主食配に給も支障があることになります。お互いに苦しい時ほど、助け合い、消費者や、轉落農家のことも察していたゞき、一日も早く完納して下さるようお願い致します。

供出は十二月中に／

乾燥は完全に／

一位に

落満州　司男　君

牛馬耕競技会

町主催牛馬耕競習会ならびに競技会は十一月二十二日大根占農協穀粉工場前の田んぼで開かれ四ケ町村の改良普及員や町内の技術員一般八十名が参加、高北製作所の目田技師を講師に講習を受け、引きつゞき、肝属南部地区改良事業所長松下技師が審査長となり競技会を行い、次の諸氏が入賞した。なお木原部落の原田速雄氏所有の動力耕耘機も出場、賞品したが、その威力には、みな感嘆の目をみはつた。

一等　七九、八点　落司満州男
二等　七七、四　竹下　藏市
二等　七三、八　宮原喜八郎
二等　七一、二　牧原　清德
三等　六八、八　寺田　達夫
三等　六八、八　六反田　栄
三等　六八、二　水口　正勝
三等　六三、四　横山　喜
三等　六二、八　脇野　操
三等　六二、六　水口　正夫

多い当地林産物の全部的生産により木材、木炭関係等多量出荷の為縣内外よりその流入が急増して、流出とほゞ同額となりました。これは一面町の消費と生産が金額の上で均衡を得たものと云われ一つの見方を持つてすれば、我が大根占町の為に経済上大きなプラスであり喜こばしい状態で尚今後益々生産出荷が、伸びる事が望ましく又念ずる次第であります。

（つづく）

農業講技座術

麥つくり (2)

小出水操

1. 麦まきが遅れた場合

麦まきがおくれると、生育期間が短く、生育も悪るく、穂数が少くなりますので、その場合は種の量を増すか、芽出し播きをします。種の増量は適期を三日おくれた毎におゝよそ三合位が基準であります。次に芽出しの方法ですが、種を一昼夜水に浸してムシロにひろげ濡れムシロをかぶせて、時々水を注いで乾燥を防ぐと共に、時々攪拌（カグハシ）して一様に発芽させます。芽出しの程度は芽の部分が白くふくれて外部に現れて來るが、まだ根を外に出さぬ程度、芽が出たら播きやすい程度に乾燥してまく、雨滅な場合、排水の悪るい畑場や降雨の続く場合には播かない方がよい。

2. 麦踏みと土入

麦の増産は肥料と手入れによつて決ります。麦踏みや、土入は麦だけに行われる、独特の作業ですがこれ等の作業を中心にして、合理的手入をやつて、夏作の収收をとり返すよう努力しましよう。麦は根が伸長すると共に、茎葉が上に伸びる力と根が分けつしようとする力を備えております。放任しておきますと麦は一般に茎葉が伸びることが主になつて、分けつの働きがおろそかになります。こうした徒長のへい害は踏むことによつて防ぐことが出來ます。又麦の穂は上に立つのが自然の姿ですから其儘にしておきますと、一株一株の穂がぎつしりくつついて、風通しや日当りが悪くなり、よわく育つて病気にもかかり易くなります踏むことで株もとをひろげ日光空気の通通をよくして、一本一本が丈夫に育つようにしてやることが出來るわけです。其踏圧操する時には根もとに高気を寄せて根の発育を助け或いは茎葉の組織を強くするなど色々の効果の多い作業です。

土入も踏圧と併せて株間をひろげ有効分けつを増すと同時に暗闇の肥料分を株際に寄せたり、麦を寒さの害から防いだり、或は大きくなつてから倒伏するのを防ぐなど極めて大切な作業であります。土入と踏圧は土地の條件と麦の生育状況に応じて、適切に組み合せて行わねばならぬもので、唯むやみにやつたり、又一方の作業だけにかたよつたりしては折角の効果が期待出來ません。気候が順調であれば年内に一回位の踏圧と土入をやる程度は必要であります。土が粘土質で固まり易い所や高気の多い地所では、踏圧を多くして土入の回数を増した方がよく、踏圧の回数を多くすることが必要です。とにかく私共は今後の気温の変化と之に伴う麦の成長の状態を常によく注意し、麦の立ちおくれになつたり、伸びすぎたりしないように踏圧や土入によつて調節して、夏作の増收を狙う程の増收を致したいものです。

以上で麦の栽培について述べたいと思いますが、長い間お読み下さる町民の皆様に厚く御礼申上げ、且又幸多と幸を祈たかつたことを節筆は致します。よい正月の訪れと皆様の御健斗を祈つて止みません。

× × ×

播して発育のおくれたものも同様です。土入は麦の小さい間は薄く大きく成長するにつれて厚く入れることが大切で、若いうちに余り沢山土を入れたり、又踏んだ直後土入をしたりして、麦の茎葉が土の下に埋まつてしまうような乱暴なことをしては却つて害になります。

麦が少さい間は先ず軽く土入して二、三日してから踏圧を加えるのが一番よいでしよう。厩肥薄播栽培はうんと分けつさせて一本でも多くの穂を出させることがねらいです。特別に寒かつたり土の條件が悪かつたりする時以外は、土入踏圧の回数を多くすることが必要です。

土地台帳と図面の書きかえ測量実施

皆様が不動産として、所有せられる土地は、土地台帳と字図面でその面積所在は一応保証されていますが、しかし、実際は面積所在ともに確実なものとは言えません。同じ台帳面積でも測量を見ると相違するもの、又それぞれの境界位置が相違するもの、隣の字図面と照合できないもの等、不確実であることは御存知のことゝ思います。

（お知らせ）

土地改良、交換分合、農業生産、農業の調査等の基礎計画、供出、税金、地積に応じてなす掛金等の公平、境界紛争の絶滅などの上からも、改正しなければならない時期にあり、これの計画を立案中の処三十年度から、実施できる見込がたつたのできます。

今度実施する調査、測量は土地の地球上の位置を基礎系によつてなすもので不正の入り込む余地もなく、図面一枚〳〵のつながりに一分の相違もないものになるのであります。この基礎は地味でしかも精度を要し、町内全部完了するには数年かゝるもので町民皆様のご協力がなければ実施できないのであります。

実施の細部については追つて通知申しますが、三十年度実施のための準備として本月（十二月）中に未尾のある一点に現在設置せられている日南農地制量部の三角点より計算して、又、新しい三角点が建設省地理調査所の職員によつて、設置されるので、この一点が表示せられる土地所有者は標石を設けることをご承諾願います。又、各三角点を見通すために支障となる立竹木の所有者は、これを伐採することを承諾して下さるようお願い申上ます。

標石を設置する見込場所

上之宇都上、山部谷、厚ケ瀬、鳥浜上、笑喜、神川有村上、神川中原、鳥ノ木、松坂。

（国定資産評價員室）

× × ×